

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【京都府】

学校名【京都府立丹波支援学校】

1 実践テーマ	【Ⅲ・Ⅴ】
2 実施対象者	丹波支援学校の中学部・高等部生徒 100名 京都学園大学健康スポーツ学科の教員・学生 30名 本校の卒業生の同窓会参加者 30名 本年度教員新規採用者、他校種研修の本校への参加者 10名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（体育） ② 行事名（同窓会・口丹地域の高等学校との交流会） ③ その他（新規採用者の研修）
4 目標（ねらい）	(1) 障害者への理解を広げ、共生社会の一員を育成する。 (2) スポーツを通して自己肯定感を高める。
5 取組内容	(1) 京都学園大学健康スポーツ学科の教員・学生との交流会(6/24、7/13)、同窓会(11/11)、口丹地域の高等学校との交流会(11/23)、でスポーツ・障害者スポーツ（ソフトボール・サッカー・ボッチャ・ドッチビー・ころがし卓球・むしむしキャッチ（ボール運動）等）を取り組んだ。 (2) 新規採用者の研修の中で、ボッチャを紹介し体験した。
6 主な成果	(1) パラリンピック種目を体験し、周知することにつながった。 (2) 支援学校における効果的な体育の指導方法を学び体験することで指導方法の幅が広がった。 (3) 他者を認め合う力が向上し、同時に自己肯定感が高まった。
7 実践において工夫した点 （事業の特色）	(1) 上記の取組を随時本校のホームページにアップしたり、新聞報道を使い広報したりすることで学校外にアピールした。 (2) 事業後、アンケートの記入や感想を聞くことで来年度への申し込みを行った。
8 主な課題等	特になし

9 来年度以降の実
施予定

今年度の取組は全て成果があったため更に内容を充実、発展して定着
していく



(京都学園大学との交流①)



(京都学園大学との交流②)



(口丹高校生の交流会)



(乗馬体験)